第１回福島駅周辺まちづくり検討会　会議録

１　日　時　　令和６年２月８日（木）　１４：００～１６：１５

２　場　所　　キョウワグループ・テルサホール　３階　あぶくま

３　出席者　　委員１１名
小林　敬一　委員長、坪井　大雄　委員、大和田　諒　委員、追分　拓哉　委員
紙谷　瑞恵　委員、　中野　義久　委員、宍戸　路枝　委員、鈴木　深雪　委員
石川　文雄　委員、　江川　純子　委員、瓶子　莉奈　委員

４　欠席者　　委員１名
西田　奈保子　副委員長

５　内　容
（１）市長あいさつ
（２）委員紹介
（３）委員長及び副委員長選出
（４）議事
〇福島駅周辺のまちづくりについて
〇今後の予定について
（５）その他

６　概　要　　議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

７．会議詳細
（１）市長あいさつ
就任後、「風格ある県都を目指すまちづくり構想」を策定し、中心市街地の活性化と公共施設の戦略的な再編整備に取り組んできた。就任以前は、方向性がないまま様々な構想がバラバラに検討されていたため、将来の人口減少を見据えながら中心市街地の活性化につながるよう優先順位をつけながら、戦略的に公共施設の再編統合を進めるために策定したもの。
これまでに、市民会館と中央学習センターの機能の（仮称）市民センターへの集約、市民会館跡地に、耐震性のない消防庁舎の移転建替えを進めながら、新まちなか広場の整備、古関裕而を活かしたまちづくり、回遊性を向上するモビリティであるシェアサイクルやメロディバスの導入を行ってきた。
駅周辺エリアに、県都にふさわしい都市機能を集約するため、駅東口の賑わいづくりを優先し、新たな交流集客の拠点施設を東口再開発事業と連携して推進し、駅東西の連結機能の強化は、拠点施設整備後の中長期的な課題に位置付けてきたところ。
中心市街地活性化の起爆剤と捉えていた東口再開発事業は、一昨年６月の事業計画認可の時点で、事業計画通り順調に進み、テナント誘致も概ね見通しがついていた。

しかしながら、全国的な工事費等の高騰に見舞われ、スケジュールを１年遅らせて資材の見直し、施設計画の調整、国の補助金の確保と、工夫を重ねてきたが、資材高騰の影響を抑えるだけの効果が得られず、さらに踏み込んだ見直しが必要になっている。

本日は、これまでの経過と、現在検討している分棟化＋ダウンサイジング（規模縮小）の２案を説明させていただく。

この２案は、事業成立が可能なものとして検討中のもの。今後、皆様の様々なご意見を伺いながら、この２案をベースとして方向性を定め、魅力的なものに肉付けをしていきたい。

また、西の拠点施設であるイトーヨーカドーが、５月６日をもって全面撤退することが決定。非常に残念な思いであり、大きな痛手ではあるが、視点を変えれば、駅東西のまちづくりを一体的に進める、またとない機会。

街なかの厳しい状況を踏まえ、東西一体的な視点から将来どのようなまちづくりが望ましいか検討しながら、特に東口は、スピード感を持って、将来にわたる活性化につなげていきたい。

西口のイトーヨーカドーの建物と土地は、東京に本社がある不動産会社が保有しており、現在同社において今後の取扱いの検討が進められている。

私どもの議論は、あくまでも今後所有者側との折衝の過程において、市として働きかけ、或いは調整していく場合の材料になるものというご認識をいただきたいと思う。

今後、本検討会で議論を進めるとともに、2 月 17 日には、一般市民の皆さんが参加いただける、駅周辺タウンミーティングの開催も予定。

また、市民の皆さんからの要請に応じて、説明し議論する出前講座を実施していきたと考えている。市議会をはじめ市民のご意見を伺いながら、より魅力的なまちづくりをしてまいりたいと思っている。

本日は、忌憚のないご意見をよろしくお願いしたい。

（２）委員紹介

委員による自己紹介

（３）委員長及び副委員長選出

事務局案の提示　委員長：小林敬一委員、副委員長：西田奈保子委員

（４）議事

〇福島駅周辺のまちづくりについて

事務局で資料１を説明後、質疑応答

委　員

風格ある県都を目指すまちづくり構想に関して、策定が何年で、その後どのように進んできたか。

事務局

風格ある県都を目指すまちづくり構想は、中心市街地将来ビジョンの委員会と、公共施設の戦略的再編の委員会を立上げて議論を重ねるとともに、市民に対しても懇談会において説明し、ご理解を得て平成３０年１２月に策定。

委　員
　中心市街地活性化基本計画は何年の策定か。

事務局
　現在の中心市街地活性化基本計画は令和３年４月に策定し、現在３年目。３期目の計画であり、最初の計画は平成２２年。

委　員
　風格ある県都を目指すまちづくり構想は、中心市街地活性化基本計画とリンクする形でさらに具体的に動き出すための計画を作ったという理解でよいか。

市　長
　スピード感をもって進めるために中心市街地活性化基本計画とは別に動き出した。
　私が市長に就任したのが平成 29 年 12 月で、公会堂は耐震性が無いため翌年 3 月末には閉まるということが決まっていたが、その後のことは何も決まっていない状態だった。また、中央学習センターや市民会館も耐震性が無く、さらには消防庁舎も耐震性が無い状況だった。
　既存の計画で進めるとスピードが上がらないので、就任後、全く別次元で検討を始めた。
　公共施設の問題だけではなく、中心市街地を早く活性化しなければならないという危機感があったため、スピード感を持って１年間という短い期間で策定した。

　事務局で資料２－１、資料２－２を説明後、質疑応答

市　長
　１点だけ補足説明を。
　この見直しにより、設計の変更が必要になる。我々は、一度延長を表明して令和９年度の完成と申し上げていたが、Ａ案Ｂ案、或いは何らかの設計見直しをするとなれば、供用はさらに最低１年は遅れることになる。Ｂ案であれば１年、Ａ案であればおそらく２年は遅れるという見込み。

委　員
　分棟化を含めて検討しているというが、事業が長期化する中での懸念として、保留床の価格が下落して見込み収益が不足する場合、工事費を下げるなど早い段階での決定が大事になる。
　それを考えた上で、劇場型の施設は市内にも立派なものが幾つかあると思うので、Ｂ案が良いと思う。コンベンションホールの中でも学会や企業の展示会にも対応できる施設があればいい。
　やはり一番は商業施設とホテルの誘致という部分が鍵を握っている。
　コンベンションホールの中でも、展示会ができるスペースが福島市にはない、と我々青年会議所でもよく話すことがあるので、今の説明の中ではＢ案が一番いいなと思う。

委　員

分譲マンションについての説明があった。年間で平均 75 戸程度供給されているということだが、実際、供給はされたものの居住していない戸数はわかるか。

事務局
再開発組合でデータは把握していないが、記載のマンションについては順調に販売がされたことは確認している。

市　長
爆発的に売れているわけではない。他の都市だと、200 戸程度のマンションを建設しているが、福島市の場合はそれだけの勢いがありませんので、年間 75 戸～100 戸で供給しているのが実態だろうと推測している。

事務局で資料３を説明後、質疑応答

質問なし

＜意見交換＞
委員長
今日はいろんなご意見をいただけたらと思う。
Ａ案がいいかＢ案がいいか、それをここで決定するわけではない。
問題はないか、或いはより現実的なものにするにはどこを変える必要があるか、何を考えなければならないか。さらには、Ａ、Ｂではないものがあるかもしれない。
背景となる価値観や街の動き、大きな動態から見て、どれがふさわしいかという観点で議論しなければならないと思う。そのような観点でそれぞれの立場から考えを発言いただきたい。
Ａ案、Ｂ案とも、風格ある県都づくりをもとに、コンセプトや福島市が持つポテンシャルに対して、福島市のまちづくりにとって本当に効果的なものは何かということで考え進めていきたいと思う。

委　員
A案については、1,000 席程度のホールは正直中途半端すぎていらないと思う。
全国大会規模ではキャパが全く足りず、県大会程度なら足りるが、大型バス移動がメインなので駅前には不要。
B案については、やっつけで出した案ではないかとさえ思う。舞台も無くて音響も悪いのに音楽ライブを誘致というのは見込めないと思う。
A案でもB案でもなく、八戸市の「マチニワ」のような、常にオープンな屋内広場、市民が集まって休める広場にしてはどうか。
その広場を、現計画の駐車場棟の位置・医大寄りに配置した方が、まちなか広場とのつながりやパセオ通り、文化通りへの回遊が期待できる。
駅前通りに自転車が置けなくなって衰退が加速した気がするので、無料の駐輪場を検討してほしい。
スピード感の重視以上に、若い方の意見をたくさん聞いてほしい。

見栄を張った建物、箱物はいらない。市民が喜んで楽しんで利用できる再開発を望む。

委　員

１つ目の観点として、福島市の人口が 2040 年までに 22 万人に減ることに目を向けないと、持続可能性のある計画にならない。

令和 10 年以降、市の財政収支の赤字がどんどん膨らむのではないかと危機感を覚える。

市外から人を呼び込まないと成り行かない。

２つ目の観点は、今後商業がどうなっていくのか。

自宅に居ながら商品が届く、自宅でサービスを受けられるなど、買い物をするために街に行く必要がなくなっている。

小売業はＥＣに市場を奪われ、不動産価値や人件費等の高騰の影響を受けて撤退が相次いでいる。

人口減少が進んで、商業自体の力が落ちていることを考えれば、今回の案は、以前の商業施設が中心だった計画より良くなっている。先の見えない変化する社会の中では、大々的に多額の費用をかけて施設を作るのではなく、可変性を持った持続可能な計画にすべきだと思う。

今、大規模商業施設は誰もワクワクしないことは明白で、商業は人がたくさん来る環境さえあれば自然に築かれると思う。

いま市場がないところに無理やり商業施設をつくっても、人が来ると考えることの方が無理があると思う。

人を呼ぶためには、人が来たくなるような動機を与える必要がある。エンタメや心躍るような体験、自宅では得られない体験など、「コト消費トキ消費」と言われる方向に行くことが良いと思う。

直接五感で体感する行為はデジタルが台頭しても残ると思うので、そういったことに寄せていくのがよいと思う。

B案のほうが、まちなかに開かれた計画だと思われる。A案のように劇場を駅前につくっても、劇場に来た人はそのまま帰ってしまい、まちなかの賑わい創出につながらないのではないか。

委　員

集客施設として、どのような人を取り込むのか、ターゲット・コンセプトをどこに置くかが重要。賑わいと言っても若者の賑わいか高齢者の賑わいかで求められる店舗は異なるはず。

賑わいを創出するための公共交通網の整備をどう考えるか。近隣市町村からのシャトルバスの運行、複合施設を拠点にする市内巡回バスの増便、採算の取れる駐車場スペースの確保などを考える必要がある。

委　員

大変厳しい外的要因の中で、再開発組合と行政がいろいろと苦労したことは非常に理解した。

現計画を変える、思い切って舵を切っていくことは結構勇気がいることであり、思い切って対応されたことに敬意を表したい。

そういう中で、導き出された分棟化とダウンサイジングについて支持したいと思う。

これから施設ができていくが、施設は使われてなんぼ、でき上がった後にその施設を市民や外から来た人が使えてなんぼだと思う。

参加してもらうこともちろん大切だが、やはり効率よく、なるべくマイナスを出さずに使われていくということもまた大切な使われ方のような気がする。

福島市の場合は、大きな施設がないから全国大会がなかなかできないという声もあるが、工夫して全国大会を開催している。

一つの例として、昨年 10 月に 2,000 人規模弱ぐらいの全国大会が開催され、その際音楽堂と競馬場を使った。音楽堂の会議映像を競馬場で流したり、また競馬場の中の映像を、全国の地域に流したりという形で、上手に全国大会を開催した事例もある。

東口駅前の施設を一つの核にすることは当然だが、福島市の場合は、テルサ、アオウゼ、こむこむ、コラッセといった施設がたくさんあるわけで、それらをうまく組み合わせることによって、全国規模のものも将来的には必ずやれるのではないかなと思っている。

それを前提に考えて、公共施設の部分としてＡ案とＢ案どちらかなと言うと、Ｂ案を基本として考えていくのが、非常にスムーズな気がする。

単なる箱としてだけではなく、駅前通りやまちなか広場、文化通りやパセオ通りも含めて、面的なコンベンションエリア的に考えていくと、やはりＢ案を一つの考え方として持ってやっていけば、いいものができてくるのでは。

委　員

これから県の文化センターが修理に入るということで、何年か使えなくなる。

コロナ禍の時はなかなか活動できなかったが、５類に移行して展覧会が今非常に盛んになり、以前の状態に戻りつつある。

今、福島の文化の担い手は、若者よりも中高年層。美術も書道も写真もみんな 60 代 70 代、うちの書道では 80 代の方たくさんいる。そういう方が、今頑張っているが、場所がない。

アオウゼ、コラッセ、テルサ、どこも今満杯で予約が取れない。

文化センターが使えないということで、私も随分走って、電話もかけたがどこも取れない状態で非常に困っている。

西口のヨーカドーの後どうなるのか、とても期待している。

ああいう場所に、ぜひ文化センターを新しくしていただいたら嬉しい。県の方にもぜひ、そう訴えかけていただければと思う。

東口の方は、財政的なこともあり、ダウンサイジングは仕方がないのかなと思っている。小さいのしかできないということだが、それはそれで、何か工夫をして、大学やまちなか広場も巻き込んで、若い人たちに使ってもらうのも良いと思う。

ただ、年配の方は１年休むと次の年は出来ないと言う。

私どもコロナ禍の時もどうしようかなと思いつつ頑張った。２年休んだら年配の方は戻って来ない。

文化活動で使えるような場所を広げていただければと思った。

西口から東口への全体的な見直しもして、文化の面でもぜひご協力いただきたい。

直接関係はないが、県立美術館について、ゴッホ展が今度来るということで大変ワクワクしている。今まで企画展のないときに一般開放してくれたらもっと人が来るのに、と思ったことがある。

市と県との連携を多くして、そのようなことも考えていただきたい。

委員長

いろんな年齢層で若い人にも高齢者にもそれぞれ充実した文化的な生活が送れるように、全体構想を考えなければいけないと思う。

委　員

箱物は維持費がかかるという点が一番大変だと思う。

会議所青年部として活動しているが、これまで出ている民間施設の撤退などで会議する場所が少なくなってきているので、必要としている部分が実際にある。

一人の子供を持つ親として考えると、子供たちが集える場所が本当に街なかにない。子供たちは自転車でいけるところが生活圏であるので、そこに子供たちが集える場所、遊べる場所を考えていただきたい。

商工会議所で、西口や東口の駅前通り、まちなか広場でイベントをしているが、同じ日にいろんなイベントが開催されるとき、西口、東口、街なかの繋がりがあると人がすごく集まる。

西口と東口の繋がりはすごく大事だと思う。

委　員

まちづくりに関しては、面的に進めていただきたい。

私自身、ずっと福島市で育ってきた。最近、パセオ通り周辺に新しいカフェなどがどんどん新規出店されているが、私自身、小さいころからよく行っているお店に行って終わりということがあり、友達のインスタグラムのストーリーで初めて知るということもあった。歩いて外から見て、新しいお店ができたことがわかるような、歩いて楽しいまちがいいなと個人的には考えている。

以前ふくしままちなか音楽祭にボランティアとして参加した際、まちなか広場で音楽祭をやっており、同時に駅前通りで蚤の市もやっていた。駅前からまちなか広場方向に人がどんどん流れていくが、国道 13 号の横断歩道を渡る前に、駅側に戻ってきてしまうような状況だった。まちなか広場でたくさんイベントをやっていると思うが、駅側から見て、イベントをやっていることが分かるようにすることが大事だと思う。

駅前に偶然行って、「イベントをやっているから行ってみよう」はあるが、「イベントがあるから駅前に行こう」とは今なってない状況かなと考えている。

市民が集える場所ということで、八戸市の「マチニワ」の事例があった。「マチニワ」は以前に授業で取り上げられたことがあり、中高生が学校終わりに行ってそこで勉強する光景が当たり前になっていると聴いている。それは、完成してから「こういうものがありますよ」ではなくて、作る段階から市民がワークショップなどに参加して、自分ごととして考えて、身近なものになったから利用されるようになったのだと思う。

検討段階から、学生の意見を言える場を設けていただくことで、その学生も自分ごととして捉えて、自分から足を運ぶようになるのかなと考えている。

福島大学でも今いろんなサークルが立ち上がっている。イトーヨーカドーがなくなってしまうから、みんなが日頃買い物できる場所を作ろうという団体なども立ち上がっている。そういう学生の団体とかサークルとかも巻き込みながら、まちづくりを進めていって欲しいなと個人的に考えている。

委　員

　ダウンサイジング、コンパクトにするのは非常にいいが、コンパクトにしたおかげで、その特色がなくなって、魅力のないビルになることを一番危惧している。

　もう少し福島市民に対してアピールすべき。今こんな形で進んでいる、こんな形で悩んでいるなどもっとアピールして、オール福島市民の協力を得ながら進めるべき。

例えば、お金が足りなかったらみんなで集めてみるとか、寄付を募ってみるとか。

今何をやっているのか、どうなっているのかわからない福島市民が多いのではないかと思う。

　駅前の再開発がきちんとしない限り、後継者、娘、孫に申し訳ないし、絶対に成功させていかなければいけない。

　少し小さくする、そして身の丈に合った採算性のある施設にするのは当然だと思うが、特色性の無いビルを作るのは間違っていると思う。

　今、商業は非常に力がなくなってきているし、飲食系はコロナで力がなくなってきていて大変な時期だが、復興をやりたいという若者もたくさん出てきている。福島市の方に進出したいという企業や飲食店も出ているので、決してマイナスではない。

　福島市民として、絶対に成功させなければといけないと思う。

　何が特色性なのか、何がコンセプトなのか、を考えて、小さくてもこれは他に負けないというものを作っていかなければいけないと思う。

委員長

　福島駅前交流･集客拠点施設整備基本計画を策定したときは、結構大規模であると同時にコンプレックス（複合）、つまり非常に複雑に絡み合って有機的に機能するようしっかり考えられていたと思う。

　それが成り立たないから小さくすればいいということではなく、小さくなったら魅力がなくなる、魅力＝人を引きつける吸引力がなくなる可能性もあるので、特色あるものにというご意見だったと思う。

委　員

　今日のご説明の中で、Ａ案Ｂ案というような、展開になってびっくりしている。

　私は西側の人間の代表だが、西側としては東西自由通路をきちんと目標を持っていただきたい。

　喫緊の課題としては、イトーヨーカドーの撤退。

　我々中高年の年代層にとって、高齢化社会で移動手段がないことが非常に悩み。

　福島市のシルバーパスポートを皆さん利用して、病院や駅前へ出かけている。シルバーパスポートはありがたいものだと、みんな感謝している。

　中高年の方では、イトーヨーカドー跡には今のような洋品店も兼ね備えた店舗、また、若い方たちにリサーチすると、親子で集まれる場所にして欲しいというような願いが上がっている。そして、やはりあの場所には身近なショッピングセンターが欲しいとご意見が上がっている。

　西側はマンションが多く建っていて居住者も多い。穏やかな街の雰囲気だが、コーヒー店や子どもの写真館など、あちこちに点と点で新しいお店ができている。

　点と点でなくて、それらを結んで駅まで持っていく賑わいの通路が欲しいと考えている。

委員長

この会議の前にイトーヨーカドーに寄ったが、大変に賑わっていて、特に高齢者がたくさん集まっていた。これが無くなれば彼らの楽しみがなくなってしまうのではないかかと大変心配している。

どうなるかわからないが、もし無くなるとしたら代わりに彼らの買い物や楽しみ、文化的な催しなど、出会う・集える・一緒に楽しめる、そのような環境をまたこの中心市街地の駅周辺に展開する必要があるだろうと思う。

委　員

鉄道関係で、私としては福島駅のあり方をどうしていくべきなのかだと思うが、鉄道駅というのは、街の中、まちづくりの中でどう位置づけるかが重要だと思う。そういう意味では今皆様の意見をお聞きして、やはり皆さんが考えていること、街が抱えている課題、そういったものをしっかり我々も理解しながら、今後の駅のあり方や自由通路のあり方をしっかり、勉強していく、協力しながら進めていく必要があると考えている。

今ある地下の自由通路の成り立ちについて説明があったが、当時国鉄時代、東北新幹線を建設構築した時代に、もともとあった国鉄職員の連絡通路を、本来であれば閉鎖するところ、利活用という形で福島市と協力しながら通路を設置したという、過去の、先人の皆さんの努力があって、この通路が成り立っていることなど、私もいろいろ過去を振り返りながら勉強させていただいた。

それ以降、なかなか東西自由通路の計画はありながらもなかなか機運が高まらなかった。実際この自由通路のあり方を今後どのようなものにしていくかというのは、福島市の皆さんや利用される皆さんも一緒に関心を持っていただくということ、そういう意味では、先ほど実証実験という形もあったが、皆さんが関心を持って考える場というものを作っていければと考えている。

最終的にこの通路をどんな形にするにしても、各都市で、鉄道で分断された街をどういうふうに一体化させて、作っていくかということで、最近では「駅まち空間」という形で、駅だけじゃなく街とどういうふうに一体化して人の賑わいを支えながら作っていくというところの議論が高まっている。

大体こういう開発なり整備したところは、間違いなく人が賑わって集まっているという状況になっている。それぞれ同じように作ってもダメだし、同じ箱モノを作ってもダメで、ここに必要な機能や特徴はなにか、福島駅に来たら安心するとか、ほっこりするとか、楽しいとか、福島駅に来たからこその何かキーワードがあるだろうなと思う。

様々な都市でこういった事例は出てきているが、逆に言えば、良い事例・悪い事例いろんな事例があるところで、福島駅にとって必要なもの、自由通路にとって必要な機能は何なのかというところが、勉強しなきゃいけないのかなというところがある。

駅を利用するということは、そこからどういうふうにまちに広がっていくかというところもある。今もかなり出入口がわかりにくいなどのご意見があるが、改札から、実際どういうふうに、自転車なのかバスなのか、それから福島交通さんもあるけども、有機的な交通モードをどう結びつけていくかということも、一つのわかりやすさだったり、駅を利用する皆さんの使い勝手だったり、といったものをきちんと考えると、街に広がりやすくなる。

街から鉄道へ、利用しやすくなるという相乗効果も出てくるかなと思うので、しっかり皆さんと議論したい。それから、街の皆さんが主役となって議論するといろんな価値が生まれてくるのは、これまでのいろんな街の活性化事例で出てきているので、皆さんと議論しながら形にしていきたい。

委　員

先ほどB案が良いと言ったが、A案の劇場を駅前につくる理由を考えた。基本的に映画とかと一緒かなと思うが、劇場の中で行われるコンテンツが素晴らしいというところに、周辺の目的としているにぎわい創出に繋がるのか疑問がある。

映画もそうだが、車で行って終わったらそのまま帰る。その劇場を見た人が、福島の街なかよかったね、また来たいねと思うのかどうか。

もっと街なかに開かれた計画の方がいいのかな、一体的に使えるとか、福島の街なかは良かったと思ってもらえるような計画がいいと思う。

委員長

今回改めて、当初の計画、福島駅前交流・集客拠点施設整備基本計画を読み、これはこれでしっかりシナリオが作られて、もくろみもはっきりしていて、大きなインパクトを期待する、それだけのものがあったと思う。

それが世の中の情勢でできないという、これは再開発なので、まず民間事業者が基本にあり、民間ができないというものをやることはできない。

もう少しハードルを下げるために公共側がお手伝いする、公共施設が本来の目的にかなったもので且つ、十分な効果を上げる、そして結果としてトータル的にまちづくりと広域的なものに繋がる、そういったことが大事かと思う。

ダウンサイジングして、どちらの案がより全体的な公益を得られるかというところが大事。

どういうものを集めるかという説明があったが、どのように運営されるのか、それが実際に周辺の人の動きにどう繋がっていくのかとか、商業者の活動にどう繋がっていくのか、まちの機能にどう関わっていくのかというシナリオはやはりまだまだ見えない。そういうところを今後、このＡ案Ｂ案或いはＣ案も含めて、それぞれがどういうシナリオで何を期待するのか、というところをもう少ししっかり議論しておく必要があろうかと思う。

今日はいろいろ皆さんからご意見が出て、大事なコンセプトがいろいろあった。例えば、広場型であるとか、或いは可変性がこれからの時代大事であるとか。ネットワークで機能すればいいので、我々今ある施設を使いまわしていくという観点も忘れてはいけないとか。都市というのはそもそも、街の見せ方が大事で、人々にどう捉えられるのか、景観的な側面や、実際歩いてみてどう感じるのか、駅側から街側から、それから偶然の出会いというものが大切であるとか。特色、コンセプトがもっと大事であるとか、こういったことについても十分検討する必要があると思う。

私の意見としては、昔若い頃に、ナレッジコアコンセプトというコンペで佳作をいただいた。それはまちづくりを進めるための運動体を作るということ。まちづくりをしようしようと言っても、皆さんとかく与えられた機会、或いは付いた補助金でまちづくりはするが、それで一過性になってしまう。それで終わってしまう。そうではなくて、状況をとらえながら、多くの人々に働きかけていくような運動体というものを、しかも、行政と民間の間に作っていくことができないか、というもの。しかも我々今、知識社会、情報社会にも入ってきて、その中でもののあり方というのが一体何なのか、ということを問いかけたい。

街の場合も、ホールを作るとしても、それがどういう人々の活動に繋がるのか、或いは動きに繋が

るのか考えると、特にインバウンドと言いながら、福島県の観光統計を見ると、まともな都市観光はない。都市観光を成功しているところはどこもないようで、本当に我々都市観光、都市観光と言いながら本当に都市の魅力をどう高めていくのか、そのためにナイトライフとか言われながら、ナイトライフに繋がっていない。

福島で検索したら、ダンスの大会で世界的な賞をもらったというニュースがあった。ダンスをやっている人もいるんだとか、そうするとここは街なかでもっといろんな新しい活動を文化的な活動を肌で感じられる、お互いに認め合うとか、そのような機会がもっと増えていけばもっと楽しいまちになると思う。

まちづくりは、価値とか魅力を作っていくことが大事。我々は消費的に考えてしまうが、物を消費することよりも、それをつくり出していくパワーがやはり必要だと思う。

これからの時代、子供たちに考える学習とか言っているが、我々自身も生涯より創造的になるために、何が必要なのかということも考えなければいけないと思う。

商業者も商店もそれぞれもっと価値を生み出すための魅力をつくり出す、そしてそれを情報発信していって初めてそれが魅力になる。大きな情報化の中で、その本当の意味でのデジタル化は単に携帯的にデジタル化するのではなくて、そういった価値とか魅力といったものを、そういった媒体を使う作業を通じてよりもう一回再認識して、磨きをかけていくというところにある。

そういったものに働きかけられるような機会になればと思う。

今日いただいた様々なご意見を事務局の方で原案をベースにして、肉付けをし、コンセプトを明確にして、それがどういう波及効果をもたらすのかシナリオをきっちりと書けるものにしていただけたらと思う。

〇今後の予定について

事務局で資料4を説明後、質疑応答

質問なし

〇検討会締めのあいさつ

市　長

本日は委員の皆様方から貴重なご意見いただき感謝。

事務局の説明が長くなり、ご自身の考え方を伝えきれないことがあったと思うので、後日、さらにご意見があれば事務局まで。そのうえで次の検討会では、委員の皆様方の意見を整理させていただき、深く議論いただけるようにしていきたいと考えている。

現行の、当初の計画は、まず、駅前に賑わいの拠点施設を作るというもの。

一つの施設を作ったから、街が劇的に変わるわけではなく、起爆剤という位置付け。

商業は人が集まり賑わえば自然とついてくるものだと思う。そのためにも、人が集まる拠点としての公共施設が重要と考えている。

公共施設をまず整備することで人が集まって賑わいにつながりまちが活性化していくという考えだが、再開発事業として成り立たないため現計画を断念し、現在様々なことを検討している。

検討のなかでも、人が集まる拠点として公共施設が重要になるという考えは変えていない。

元をたどれば、公共施設の戦略的再編整備を検討するうえで、耐震性がないため閉鎖した公会堂や

市民会館の機能の一部を駅前に配置することにより、人が集まり、街が動いていく、そういう施設にしようということで計画をしてきた。

しかしながら、資材高騰などで再開発事業の現行計画通りの実施が難しくなり、ダウンサイジング等工夫をしなければならない。改めて何が必要かということをよく考えていかなければならないというのは、皆さんからご指摘いただいた通り。

街なかは計画をした時点からさらに変化しており、辰巳屋、セレクトン、サンパレスが無くなり、人が集まるスペース、会合ができる場所がなくなっている。

本来は民間が投資していただければありがたいのだが、リスクを負ってやっていただく方は今のところ見当たらない。公共が役割を果たす必要があると考えている。

委員から、みんなが集まれる広場が必要であると意見があった。そういうスペースも大事かと思うが、まずは、会議や展示会など目的を持って多くの人数が集まる場所がやはり今の街にとっては重要で、それをどういう形で確保していくか、急ぐ必要があると考えている。

若い人や高齢の方は、それぞれ街なかにニーズがあるわけで、それをどう満たしていくかということが今後必要になると思う。年配の方とは自治振で地域ごとに様々な意見を聞く機会があるが、若い人とはなかなか接触がない。このため若者のまちづくり参加促進の事業として「こくりナビ」というものをつくり、170 人ぐらい参加いただいている。そこで呼びかけをして若い人の話を聞きたいと思う。また、出前講座という取組みもあるので、いろんな機会を作りながらご意見を伺っていきたい。

私自身、街なかのまちづくりを進める上で非常に辛いと感じているのは、福島市の場合、街なかに公共用地がないこと。他都市では、駅周辺には公共用地があってそれが核になり、まちづくりが進んでいくという面がある。

街なかに駐輪場確保をと話もありましたが、街なかに公共用地がないので、陸橋の高架下や民有地を借地しながら提供している状況。

この状況も何とかしたいなと思っていろいろ検討を進めており、東口再開発エリアの地下に確保することも正直考えている。高度利用されている都市であればあるほど、駐車場や駐輪場は地下で確保されているので、そのような対策も一つだろうと思っている。道路を掘ってやるとなると、道路を止めて駐輪場を作ることは大変な状況だが、今の再開発のスペースに地下駐輪場を確保するというのも一つの手ではないかと考えている。

何よりも、新しい価値を作る、魅力的なものにするためには、皆様のご意見を伺いながら、小さくても魅力あるものにしたいと考えており、今後肉づけをしていくことを重視していきたい。

そして、まちづくりにおいては何よりも、連携が大事。

福島市には駅前に地下道が２つあるが、結局、通りを渡るだけの地下道になっている。本来であれば、地下の東西自由通路に繋がっていればいいのだが、なかなかネットワークされていない。

まちなか広場も前のビル２つに遮られていて駅側から見えなくなっている。本当は、区画整理で駅から見える形でまちなか広場を作りたかったのだが、もともとの所有者の意向もあって、結果としてまちなか広場で何をやっているか分からない配置になってしまった。

今後もいろいろ制約はあると思うが、最大限ネットワークを良くして、いろんな取り組みが連動してにぎわいを作っていける、そういうまちづくりをしていきたい。